

和歌山病院での実習を終えて



岡村 雅

今回、和歌山県立医科大学の呼吸器内科の臨床実習の一環として2日間和歌山病院で実習させていただきました。大学では学べない多くのことを学べたので、ここにいくつか書かせていただきます。

1つ目は結核病棟や結核患者さんのDOTSなどを見学させていただいたことです。授業などで知識としては知っていましたが、実際に目にするのは初めてでした。駿田先生による結核の感染様式の講義などから、結核について正しくイメージすることもできました。将来、結核患者さんを診る機会があったときに患者さんにわかりやすく説明することができそうです。

2つ目は南方先生による胸部レントゲンの読影の仕方の講義です。今までレントゲンを見ても何となく異常だと思うことはあっても、何がどう異常なのかはわからない、というか考えようともあまりしませんでした。レントゲンがどのような要素で構成されているかを自分たちで考えて、1つ1つ疑問を解決していくと、今までにはわからなかった異常を指摘できるようになりました。大学に戻ってからも自分の担当した患者さんのレントゲンはきっちりと読みたいと思いました。

3つ目は南方先生と一緒に食事に入れていただいた際にお聞きした、御坊にまつわる伝説、お話しです。宮子姫の話など御坊がそんな由緒正しい場所だったと初めて知りました。また、病院のすぐ近くの海岸は煙樹ヶ浜というのですが、松の樹林帯が美しくいいところだなあと思いました。今回の実習で和歌山という場所がまた1段と好きになり、僕は大阪出身なのですが和歌山への愛がより深まりました。

今回1泊2日の実習でしたが、臨床実習の中で数少ない大学外の実習でありとてもいい刺激になりました。南方先生からおっしゃっていただいた「いい医者になれよ」ということばを胸にこれからも精一杯努力をして、自分の興味のあることを極めていい医者になりたいと思います。最後に今回の実習でお世話になった、南方院長、駿田副院長、和歌山病院の方々に感謝の念を申し上げます。2日間本当にありがとうございました。